

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：12613

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20791

研究課題名（和文）戦災のもたらす心霊現象の社会学：見えないものの記録と継承

研究課題名（英文）Sociological Study on War and Supernatural Phenomena: Documenting and Inheriting Mysterious Experiences on the Asia-Pacific War

研究代表者

根本 雅也（NEMOTO, Masaya）

一橋大学・大学院社会学研究科・講師

研究者番号：00707383

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はフィールドワークとインタビュー調査を当初想定していたが、COVID-19の影響により、資料調査を主な方法とした。資料調査から得られた主な成果は以下である。第一に、戦争・戦災体験者の手記や回想録の中に不可思議な体験談が散見されるということである。第二に、戦争の心霊・超常現象はときに民話として残されてきたことである。第三に、怪談やミステリー、オカルトなどの分野において戦争の心霊・超常現象の記述は多く見られた。これらの資料からは、戦争の心霊・超常現象には、家族といった身近な人物に関係するものと素性の分からない人物に関わるものに大別され、後者には場所の歴史と密接に関わることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は、これまで注目されることのなかったアジア・太平洋戦争にまつわる心霊・超常現象について光を当てたことにある。資料調査を通じて、そうした心霊・超常現象の体験談や語りが一定程度に存在し、残されてきたことが明らかになった。このことは、アジア・太平洋戦争が教育や歴史などとは異なる形でも伝承されてきたことを示唆している。「戦争体験の継承」が社会的課題となっている現在において、本研究の成果は一つの問題提起となりうると考える。

研究成果の概要（英文）：Documents and articles were collected and analyzed as the primary method of this study due to the influence of COVID-19 though the study originally envisioned fieldwork and interviews.

The main results obtained from the document survey are as follows. First, there are some mysterious stories in the memoirs of Japanese survivors from the Asia-Pacific War. Second, paranormal phenomena of the Asia-Pacific War have been preserved as folk tales. Third, articles related to ghost and supernatural phenomena on the Asia-Pacific War have been found in occult magazines and books. From documents and articles collected in this study, there are mainly two types of ghost stories on the Asia-Pacific War: ghosts of familiar persons or unknown ones. And the latter are closely related to the history of a place where the ghost appeared.

研究分野：社会学

キーワード：戦争体験の継承 心霊・超常現象 原爆 空襲

1. 研究開始当初の背景

戦争やその記憶について社会学的研究は多くの蓄積を有している。しかし、一方で、戦争にまつわる心霊・超常現象については、研究対象として取り上げられることがほとんどない。そもそも、心霊・超常現象は文学や人類学・民俗学などにおいて研究の俎上に挙げられていたものの、社会学では宗教に関連する研究など一部に限定されてきたように思われる。しかし、東日本大震災を契機として、災害による死者にまつわる心霊・超常現象が注目を集めるようになった(e.g. 金菱 2016)。また、国外ではすでに戦争や紛争といった暴力と幽霊の関わりについて研究が進められている(e.g. Kwon 2008, Perera 2001)。こうした研究は、死者に対する生者の捉え方や価値を探るという点で、災害・戦争後の社会の一端の解明を試みる。それにもかかわらず、空襲を受けた東京や原爆を受けた広島などでは心霊・超常現象に着目する研究はなされてこなかった。

これまで広島市を中心にフィールドワークを重ねてきた代表者は、死者の幽霊や幻覚をみたという人びとに実際に出会っている。また、広島市や東京に限らず、戦災を受けた地域では現在心霊スポットとなっている場所も多くあり、民話も記録されている(松谷 1987)。このように考えるならば、戦争体験にまつわる心霊・超常現象はなかったわけではなく、そうした語りや記録と向き合う研究がなかっただけであるように思われた。

また戦争体験にまつわる心霊・超常現象は、単に学術的に見過ごされてきたというだけではない。戦争体験を継承することは社会的課題とされ多種多様な実践が行われている。しかし、意識的な継承活動が注目を集める一方(e.g. 深谷 2018)、幽霊譚や怪談のように、自然発生的に語り継がれる「継承」はこれまで十分に省みられてこなかった。このことは現代日本社会で課題とされる「戦争体験の継承」が固有の力学を持ち、そこでは光が当てられる何かがある一方で、光が当てられない部分が創出されていることを示唆している。

そこで、代表者は、戦争体験にまつわる幽霊譚や怪談などに着目し、その中で戦争・戦災による死がどのように位置づけられているのかを探る本研究を構想した。

2. 研究の目的

本研究は、戦災にまつわる心霊・超常現象を戦争体験が語り継がれる一形態として捉え、それらを掘り起こしていく。その上で、これらの心霊・超常現象の語りにおいて、戦災の死者が生者(社会)によってどのように描かれるのかを検討し、体験者による証言や教育とは異なる「戦争体験の継承」のあり方を探求することを目的とする。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究は、開始当初、戦争体験の中でも、広島に投下された原爆の災禍と東京大空襲という二つの戦災を取り上げることとしていた。戦争体験にまつわる心霊・超常現象は、戦災に限ったことではなく、戦災も広島・東京だけではない。しかし、心霊・超常現象の掘り起こしという探索的性格を持つ本研究には丹念な調査が必要であり、それには対象地域への精通やネットワークが求められる。そうした理由から、代表者がこれまで現地調査を積み重ねてきた広島市、および近郊に長らく居住し一定のネットワークを有している東京を調査地として設定した。

しかし、本研究が開始された2020年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が始まった時期でもあった。そのため、当初は現地調査に行くこともままならず、インターネットによる調査を主としていた。現地に行くことが可能になった後も、資料調査や史跡等の観察が中心となった。申請当初に想定していたインタビューは、補助事業期間中においてはかなり機会が限定されていた。

以上のような予期せぬ状況を背景として、本研究では、資料調査に重点を置き、また広く資料を収集するため、軍隊を含む戦争一般(ただしアジア・太平洋戦争)に関連する心霊・超常現象に検討対象を広げることとした。

4. 研究成果

上述のように、本研究は、新型コロナウイルス感染症の流行を背景に、広島原爆と東京大空襲という戦災を中心にしつつも、広くアジア・太平洋戦争にまつわる心霊・超常現象に関連する資料の収集に取り組んだ。それを通じて明らかになったのは以下である。

(1) アジア・太平洋戦争にまつわる心霊・超常現象の記述の所在

まず、国立国会図書館などでの資料調査を通じて、アジア・太平洋戦争にまつわる心霊・超常現象がどのような資料で見つかったのかについて記しておきたい。

戦争を体験した人びとの手記・回想記
兵士として戦争に参加した者や戦災などを体験した人びとの手記などの中に、時折、不思議

な体験のエピソードとして心霊・超常現象の記述があった。しかし、こうした手記は心霊・超常現象について記述することを目的としているわけではないため、該当する記述の発見は偶然でもあった。なお、戦争にまつわる不思議な体験談を手記などから集めたものとして『戦争と怪談』（山田 2006）といった書籍がある。

現代民話

現代の民話として採集されたものの中に、アジア・太平洋戦争にまつわる不可思議な出来事や体験のエピソードが含まれている。たとえば、松谷みよ子が編纂した『現代民話考』のシリーズは戦争を主題として取り上げたものがある。また、それ以外にも現代の民話をまとめた書籍や雑誌などにおいてそうした超常的な現象が散見された。なお、広島市では地域の民話に関する文献調査を実施した。しかし、そこで見つかったのは昔ながらの民話であり、アジア・太平洋戦争や原爆に関するものは補助事業期間内の調査では見つけることはできなかった。

心霊・超常現象を主題とする雑誌・書籍

アジア・太平洋戦争にまつわる心霊・超常現象の記述を最も多く得ることができたのは、「ミステリー」「ホラー」「オカルト」「怪談」といったカテゴリーに含まれる書籍や雑誌であった。この中にはフィクションとして創作されたと思われるものもある。

ウェブサイト

文献資料調査ではないが、インターネット上の調査を通じて、心霊・超常現象を紹介するウェブサイトやブログを複数発見した。「怪談」や「心霊スポット」を紹介するウェブサイトでは、アジア・太平洋戦争に関連する出来事や場所に言及するものも少なくない。

（２）身近な死者 と 未知の死者

資料調査を通じて明らかになったのは、戦争にまつわる死者の心霊・超常現象が語られる（記述される）とき、家族や親族といった身近な死者が現れる場合と、素性がわからない未知の死者と遭遇する場合とに大別されるということである。身近な死者は遺族が経験することが多い。たとえば、戦争に出征した夫や息子が夢の中に現れ、自らの死を知らせるといったものである。これに対して未知の死者は、遭遇した人びとにとって名前や素性がわからない死者が現れるというものである。なお、この分類は、東日本大震災の津波被災地域における「霊的体験」について調査をした高橋原と堀江宗正の研究（2021）にもとづいている。

（３）未知の死者 と 場所の歴史

代表者は、オカルト雑誌『ムー』の読者投稿欄に寄せられた体験談のうち、アジア・太平洋戦争の未知の死者に関連する投稿を整理し分析を行った（根本 2024）。未知の死者が出現／想起される場合、大きく二つの形があった。一つは、死者が目の前に出現する（そのような知覚がなされる）場合である。たとえば、戦後、ある場所で日本軍兵士を見かけるといったものである。もう一つは、実際に死者が出現するわけではなく、その存在が推察されるという場合である。たとえば、不可思議な現象や不幸な出来事、体調の悪化などが起きた時に、戦争の死者がその要因として想起されるというものである。

上記の未知の死者の出現・想起は、その場所にまつわる戦争の歴史とその伝承が関係していた。たとえば、空襲を受けて多くの人びとが亡くなったりした場所において、その歴史を語り伝える人などがいる場合に、未知の死者の出現・想起がなされる傾向があった。

5. 今後の課題

資料調査を通じた戦争に関する未知の死者の考察は、戦争の歴史が語り伝えられる場所に着目すべきことを示唆していた。このことは、本研究がほとんど実施できなかったフィールドワーク及びインタビュー調査の重要性を意味する。また、現地でのフィールドワークは限られていたものの、その中で、戦災にまつわる心霊・超常現象のエピソードを全く入手できなかったわけでもない。この点からも更なる調査が求められているといえよう。

[引用文献]

- 深谷直弘, 2018, 『原爆を継承する実践』新曜社。
高橋原・堀江宗正, 2021, 『死者の力』岩波書店。
金菱清編, 2016, 『呼び覚まされる霊性の震災学』新曜社。
Kwon, Heonik, 2008, *Ghosts of War in Vietnam*, Cambridge University Press.
松谷みよ子, 1987, 『現代民話考6 銃後』立風書房。
根本雅也, 2024, 「心霊・超常体験談が映し出す 戦争の歴史の想起と伝承」『年報社会学論集』37, ページ数未定（近刊）。
Perera, Sasanka, 2001, "Spirit Possession and Avenging Ghosts," Veena Das, Arthur Kleinman, and Margaret Lock, eds., *Remaking a World*, University of California Press.
山田盟子, 2006, 『戦争と怪談』新風舎。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 根本雅也	4. 巻 37
2. 論文標題 心霊・超常体験談が映し出す 戦争の歴史 の想起と伝承 雑誌「ムー」における読者投稿欄の分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 年報社会学論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 根本雅也	4. 巻 2
2. 論文標題 継承と平和 広島における体験継承の目的化と平和運動の変質	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 平和社会学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 根本雅也	4. 巻 29
2. 論文標題 忘れた事実、忘れなかった想い 認知症の原爆被爆者の語りは何を映し出したのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会と調査	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 根本雅也	4. 巻 6
2. 論文標題 戦争体験継承 の未来を探る 特集にあたって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 戦争社会学研究	6. 最初と最後の頁 96-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根本雅也	4. 巻 287
2. 論文標題 被爆ナショナリズムの政治力学 自民党政権と核兵器・被爆者問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 276-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根本雅也	4. 巻 3
2. 論文標題 都市における厄災の意味 「ヒロシマ」をめぐる力学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域社会学会ジャーナル	6. 最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 根本雅也	4. 巻 16
2. 論文標題 幻覚の口述史: ある原爆被爆者の憎しみとゆるしの物語り	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本オーラル・ヒストリー研究	6. 最初と最後の頁 91-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根本雅也	4. 巻 16
2. 論文標題 特集にあたって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本オーラル・ヒストリー研究	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根本雅也	4. 巻 16
2. 論文標題 日本とアメリカのはざまで：在米原爆被爆者の運動史の解明に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島平和記念資料館資料調査委員会 研究報告	6. 最初と最後の頁 107-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 根本雅也
2. 発表標題 非政治的なものの政治性 広島における反核と人道意識
3. 学会等名 平和社会学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 根本雅也
2. 発表標題 都市における厄災の意味 「ヒロシマ」をめぐる力学
3. 学会等名 地域社会学会2021年度第2回研究例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 根本雅也
2. 発表標題 なぜこんな目に遭わなくてはならなかったのか 原爆被害者の苦しみとその意味の追求
3. 学会等名 日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 竹島 正、森 茂起、中村 江里、伊香俊哉、一ノ瀬俊也、根本雅也、蘭 信三、オイゲン・コウほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 352
3. 書名 戦争と文化的トラウマ	

1. 著者名 足羽興志子、ジョナサン・ルイス、デヴィット・L・ワンク、伊藤毅、中村寛、ディエゴ・オルスタイン、林志弦、根本雅也ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 328
3. 書名 グローバル・スタディーズの挑戦 クリティカルに、ラディカルに	

1. 著者名 石田淳、佐藤史郎、下谷知奈緒、上野智也、小松寛、清水奈名子、根本雅也ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 204
3. 書名 戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー	

1. 著者名 蘭信三、小倉康嗣、今野日出晴、根本雅也ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 みずき書林	5. 総ページ数 503
3. 書名 なぜ戦争体験を継承するのか：ポスト体験時代の歴史実践	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------